

## 発達障害に関する講演会を開催

発達障害のある子どもたちには、その特性にあった関わりが大切になる。関西学院では、発達障害への理解を深め、また多くの子どもたちの子育てに関するヒントとなるよう、講演会を開催する。どなたでも参加できます。

## 関西学院子どもセンター講演会

「発達障がいをもつ子どもの心の傷つきについて  
-思春期に向けて幼児期から気をつけること-」

■日時:3月4日(土)

13時30分～15時30分

■場所:西宮聖和キャンパス

山川記念館2階ランバスチャペル

■主催:関西学院子どもセンター発達

支援事業ういんぐ

■講師:田中究・兵庫県立光風病院院長

■申し込み:①氏名 ②所属 ③連絡先

④参加人数 ⑤住所(今後案内の郵送希望者のみ)を明記の上、メール([k.g.wing-kouenkai@kwansei.ac.jp](mailto:k.g.wing-kouenkai@kwansei.ac.jp))か、ファクス(0798・52・4372)まで。先着400名。

■内容:神戸大学医学部付属病院精神科にて長年、思春期青年期の外来を担当してきた田中究・兵庫県立光風病院院長が、発達障がいのある子どもへ関わりの中で思春期に向けて幼児期から気をつけることについて語る。



## 関西学院大学梅田講演会

「子どものころが健康に育つために  
-発達障害児の相談からみえてくるもの-」

■日時:3月10日(金)14時～15時30分

■場所:大阪梅田キャンパス1405号教室  
(アプローチタワー14階)

■主催:

関西学院同窓会西日本センター、

関西学院大学大阪梅田キャンパス

■講師:井出 浩・人間福祉学部教授

■申し込み:大阪梅田キャンパスHP

([http://www.kwansei.ac.jp/kg\\_hub/](http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/))から。先着80名。

■内容:発達障害のある子どもたちには、その障害の特性を踏まえ、発達を促すための関わり(療育)が求められる。しかし、「療育」は特別なものではなく、子どもがもつ様々な不得手なところを踏まえての関わり方である。神戸市児童相談所(現・神戸市こども家庭センター)などで数多くの発達障害の相談に応じてきた井出浩・人間福祉学部教授が、多くの子どもたちにもつながる子育てについて語る。



## 関関同立の最前線の研究を紹介

## 「数理・情報による生命科学の新たな潮流」

3/7(火)、西宮上ヶ原キャンパスで

理工学部は、関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学の最前線の研究を紹介する「第5回四私大合同生命科学シンポジウム」を開催する。

数理科学や情報科学に基づくアプローチは近年、医療・創薬などの応用から基礎までを含む様々な生命科学の駆動力として注目されている。

※一般参加可、無料、事前申し込み不要

■日時:3月7日(火)13時～18時

■場所:西宮上ヶ原キャンパス関西学院会館「光の間」

■プログラム

・13時～13時10分 開会の挨拶

・13時10分～13時35分

「セントラルドクマでは解らない機能性代謝物質の生体機能解析」(伊藤将弘・立命館大学生命科学部教授)

・13時35分～14時

「遺伝子発現の変調によるガン進展メカニズム解明」

(和久剛・同志社大学生命医科学部助教)

・14時～14時25分

「生体信号の数理解析に基づく心身の状態評価に関する研究」(吉野公三・関西学院大学理工学部准教授)

・14時25分～14時50分

「力学モデルに基づく循環器系疾患治療用デバイスの最適化と機能評価」

(田地川勉・関西大学システム理工学部准教授)

・14時50分～16時10分

教員・大学院生によるポスター発表

・16時10分～16時35分

「数理モデルを使って生命現象に迫る」

(巖佐庸・九州大学システム生命科学府教授)

※2018年度関西学院大学理工学部着任予定

・16時35分～17時

「微生物を用いた有用物質生産の数理モデルを用いた最適化」(片倉啓雄・関西大学化学生命工学部教授)

・17時～17時25分

「天然変性領域による転写制御の分子機構」

(笠原浩太・立命館大学生命科学部助教)

・17時25分～17時50分

「脳機能情報による瞑想状態の検討」

(廣安知之・同志社大学生命医科学部教授)

・17時50分～18時 閉会の挨拶

■問い合わせ先:

関西学院大学理工学部事務室(079・565・8300)

